



尾久西だより

荒川区立尾久西小学校
発行日 平成29年12月1日
発行者 校長 末永 寿宣

No. 321 12月号

尾久西小学校の防災教育

～命の大切さ、思いやる心を育てるために～

荒川区は、区内の約6割を木造住宅密集地域が占めており、東京都が発表した首都直下地震による被害想定では、23件の火災が発生し、区内の建物の14%が焼失されるなど、震災時の危険性が指摘されています。また、地域防災の中心的な担い手である防災区民組織の高齢化、平日の日中に震災が発生した場合には、若い人たちが地域にいないという問題があります。

そこで、尾久西小学校では、小学生の段階から、具体的な防災に係る体験を通じた防災意識の醸成が必要であると考え、子供たちの実態に応じた防災教育を進めています。

日本赤十字社作成の教材を活用

小学校段階における防災教育の目標は、防災意識を高め、周りの命を救うこと、命の大切さ、思いやる心を育てることです。毎月の防災訓練を実施するとともに、防災教育を学習として位置づけることが大切です。本校では、今年度、総合的な学習の時間において、防災教育を実践しています。地域で予想される地震や火災などだけでなく、災害の総合的な基礎知識を身につけるのが目標です。

荒川区では想定されていなくても、子供たちは、将来旅行をしたり、引っ越しをしたりして、大雪の降る地域や、火山のある地域を訪れたりするでしょう。そこに住むことになるかもしれません。どこにいても、災害時に適切に対応するための基礎を小学校で学ぶことの意義は、大きいと考えます。

防災教育チャレンジプラン校

今年度、内閣府主催による「防災教育チャレンジプラン」校に本校が全国19団体の一つとして指定されました。これは、毎年防災教育の新しい取組を実践する団体を対象に、経費の補助やアドバイザーの派遣を通して、支援を行うものです。

本校では、授業の中で防災教育を進めると同時に、防災教育の一環として、「ジュニア防災クラブ」を実践しています。教育課程内のクラブ活動の一つとして、昨年度に校内で開設され、現在は希望者の4年生から6年生27名が、月に一度活動しています。これまでに消防搬送訓練やガスの防災授業、火おこし体験、身の回りの物を利用した応急手当のワークショップ、消火器材を乗せたリアカーを引いて、地域に防災を呼びかける「突撃リアカー隊」など、尾久消防署や地域の協力を得ながら、多様な防災教育を行ってきました。

尾久西小の子供一人一人が、自助・共助の意識を高め、命の大切さ、思いやる心を育てるために、地域や保護者の方々のご理解とご協力をいただきながら、子供の可能性を伸ばしてまいります。

引き続き、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

校長 末永 寿宣



▲防災教育の教材／青少年赤十字防災教育プログラム「まもるいのち ひろめるぼうさい」



▲避難訓練／外にいるときの地震を想定し、しっかり頭を守る1年生



▲ジュニア防災クラブ／スーパーのビニール袋を使って、応急手当を学ぶ子供たち